

公開シンポジウム

美しい日本の桜を 未来に伝える

ー 系統保全の現状と新展開ー

平成25年2月16日(土)

13時～17時(開場12時)

参加費無料

(定員300名／事前にお申し込みください)

日本の桜は、10種の野生の桜のほか、多数の美しい栽培品種が育成されてきました。伝統的な栽培品種の分類については、長い歴史の中で様々な混乱が生じていますが、近年、遺伝子情報と形態観察に基づく研究で、新たな進展が見られます。このシンポジウムでは、日本の桜の歴史と最新の研究成果を紹介し、未来に伝える系統保全を考える機会にしたいと思います。

■第1部 サクラ栽培品種の歴史と発展

- 野生種から栽培品種への道 (池谷祐幸・農研機構)
- 竹中要博士と遺伝研の桜 (森脇和郎・理研筑波研究所)
- 北陸地方の栽培品種 (大原隆明・富山県中央植物園)
- 園芸品種の増殖と管理の問題点 (田中秀明・日本花の会)

■第2部 遺伝子情報とサクラの系統保全

- サクラの病害と系統 (長谷川絵里・森林総研)
- DNAから見た栽培品種の再分類 (加藤珠理・森林総研)
- 組織培養による増殖とDNA識別の事例 (石尾将吾・住友林業)
- DNA識別に基づく栽培個体の系統保存 (勝木俊雄・森林総研)
- 染井吉野とサクラ属野生種の交雑とその要因 (向井譲・岐阜大学)

■第3部 今後の系統保全はどうあるべきか

- パネルディスカッション



場所：
木材会館7F
ひのきホール

東京都江東区
新木場1-18-8

JR京葉線／
東京メトロ有楽町線／りんかい線
「新木場駅」下車 徒歩3分

- 桜に関心がある一般の方向けの講演会です。
- 参加者には、多摩森林科学園発行「新しいサクラ保存林ガイド」(カラーB5版、40ページ、2013年2月発行予定)を進呈します。
- 電子メールで(kouhotama@ffpri.affrc.go.jp宛)事前にお申し込みください。先着順300名。空きがあれば当日参加も可能ですが、事前申込が優先となります。
- 詳しくは多摩森林科学園のホームページをご覧ください。
- 問合せは、042-661-1121(多摩森林科学園)へ。

主催：独立行政法人
森林総合研究所 多摩森林科学園